在宅医療研究特論（Advance of Home Medical Care Study）

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
藤田 孝、福田 愛子、高崎 昭彦	１年次 前 期	選択	2	30	講義	あり	巻末掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	在宅医療研究特論では、在宅医療に関与するための臨床検査技師の取り組みについて、POCT(Point of Care Testing)検査機器の開発研究、サルコペニアへの検査学的助言、血管疾患検査による前向きコホート研究などの他、出張検査のためのポータブル検査機器の開発などについて学修する。また、在宅医療を受ける患者の年齢構成や病態などの背景など臨床検査技師として学ぶべき重要な話題も学修する。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 実務家教員（藤田、福田、高崎）が講義を進めていく。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」及び④「臨床検査技師の役割を探求し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	1.POCT装置の基礎的理論と技術を説明できる。 2.海外の文献などを基に発展的な理論、技術を学び説明できる。 3.在宅医療における臨床検査技師の必要性を説明できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第15回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく／分からない用語については調べておく（各30分） 第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／毎回の講義の復習を十分行うこと。毎回の講義の復習を十分行うこと。（各30分）
	※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第 1 回	在宅医療における臨床検査技師の必要性について	藤田　孝
	第 2 回	在宅医療用簡易測定装置の精度管理について	藤田　孝
	第 3 回	POCT装置の現状と問題点について	藤田　孝
	第 4 回	イムノクロマト法を用いた簡易検査キットの現状と問題点	藤田　孝
	第 5 回	IT技術を用いた検査データの活用について	福田愛子
	第 6 回	在宅医療で活用できる健康支援システムの確立に向けて	福田愛子
	第 7 回	POCT装置に応用できる新たな測定技術の開発について	藤田　孝
	第 8 回	イムノクロマト法に応用できるバイオマーカー探索について	藤田　孝
	第 9 回	在宅における深部動静脈血栓の測定意義	高崎　昭彦
	第 10 回	ミクログリアの機能と在宅医療	高崎　昭彦
	第 11 回	SMFC（凝固亢進マーカー）などを使った血栓の早期検出	高崎　昭彦
	第 12 回	血液凝固に関する新規マーカーの探索	高崎　昭彦
	第 13 回	超音波とサーモグラフィーによる早期褥瘡の検出	高崎　昭彦
	第 14 回	口腔内細菌と静脈血栓との関連についての検討	高崎　昭彦
	第 15 回	在宅医療における臨床検査技師の役割	高崎　昭彦

評価方法 評価基準	レポートで評価する（100%）		
教科書	特に定めない	参考書等	教員が資料を配布する。
学生への メッセージ	在宅医療は今後の臨床検査技師の業務上重要な位置を占めることが予想されています。 毎回の講義の復習を十分行ない、討議には積極的に参加することを求めます。		